

平成 22 年 8 月 25 日

武蔵野市の将来を考える市民会議

委員の皆様

事務局の皆様

武蔵野市緑町在住

先日の会議を傍聴させていただき、また市HPにアップされました第 1 回会議内容を見いたしました。皆様の熱心なご議論に心より感謝申し上げます。

早速ではありますが、疑問と意見を下記に述べさせていただきます。

① 市民会議の役割について

事務局の皆様には正直申し上げて、第 1 回会議内容から市民会議と策定委員会との関係性が理解出来ませんでした。この会議の設置趣旨は策定委員会へ単に 2 名選出するための選考会議なのかとも思えました。

策定委員会の中に市民が入ることの意義は、前回の調整計画の策定を見れば一定の理解が出来ますが、それは 5 分野・概ね 20 名ずつの市民会議を 20 回ほど経たうえでのことであり、それと比較しても今回の市民会議は開催回数が少なすぎます。

武蔵野市の将来を考えるとと言っても、細々した問題へ解決策を提示する時間は到底ありませんし、現在進行中の計画を個別に検証することも出来ないと思います。たとえ両論併記という形をとったとしても。

それよりも、今後開催予定のワークショップや圏域・関係団体市民会議から如何にして市民の意見を吸い上げるかということの方が重要に思えました。

市民会議の皆様には、策定委員会と市民との間に立ち、最後までどのような役割を果たせるのかということもご議論いただきたいと思います。

また、もっと大枠での武蔵野市の将来像を提示することも是非ご検討いただきたいと思いました。人が人として生き続ける街である以上、月並みな将来像しか出てこないこともあるかもしれませんが、その「生き続けられる」という根幹が揺らいでいるのが社会の実情ではないでしょうか。

明確な将来像と、市民が考える「街」としての方向性・意志を明確にすることで、税金の使い道や施策の優先度の検討がスムーズに進むと思いました。

② コミュニティについて

コミュニティのあり方へのご意見が様々に出ていたかと思いますが、それは人が住むことで初めて街として成り立つ以上、当然のことだと思います。

その中で、退職された男性を如何にして地域コミュニティに取り込むかというご意見があったかと思いますが、その他に、今出来つつあるコミュニティを大事にする方法のご議論もしていただきたいと思いました。

私は子どものころから武蔵野市にいますが、それまで「単に武蔵野市にいた」だけだったものが、子どもが生まれたことで「生きつづけられる街に住む」ということを意識しました。

子どもの頃の友人と再会することもあります、それ以上に子どもの成長とともに出会った同じ立場の方たちとの関係こそが私にとってのコミュニティです。「子どもを持つと住み続け難い武蔵野市」といったご意見があったかと思いますが、そのことがコミュニティの継続性に悪影響を及ぼしているという事まで目を向けていただきたいと思いました。

また、コミュニティを様々な枠としてとらえた際、私たち子育て世代の周りには幼稚園や保育園の父母会、そして学校のPTAがありますが、特に就学年齢に達した際のPTA(保護者としても一定の経験を積んだ際とも捉えられる)と地域の団体との関係が寸断されていることも気になります。

「青少協から足抜け出来ない」といったご意見もありましたが、地域社協や各コミュニティ協議会でも同様の問題を抱えていると思います。「足抜け出来ない」ことが問題なのではなく、そのような意識に陥ってしまう事が問題なのだと思います。

もっと緩やかに、絶えず寄り添い、溶け込むようにそれらの団体の持つ「機能」がコミュニティに蔓延していることが大事なのではないでしょうか。それによってコミュニティの枠が無くなっていくと思います。

具体的な提示をせず、散漫な文章となってしまう申し訳ありません。

また、市民会議に選出された皆様に様々なことを押し付ける形になっていることは承知しておりますが、一市民の意見としてお耳を貸していただければ幸いです。